

## 令和 7 年度 学校法人東京農業大学事業計画

### — 本格的な人口減少社会を見据え、主体的な改革を推進 —

令和 7 年度は、各設置学校が持続的に発展していくために必要な対策を重点的に講じることとし、本格的な人口減少社会を見据え、安定的に学生生徒児童を確保するとともに人材育成に係る教育研究環境を整備する。

本法人財政の基本理念「経営・財政の安定なくして、教育研究の充実・発展なし」の下、安定的財政基盤を確立し、中期計画 N2026 の確実な実現を目指す。

#### 教育研究の充実・発展

中期計画 N2026 に基づき、質の高い特色ある教育研究事業を推進する計画とする。

#### 教育環境の整備

中長期財政計画 N2030 に基づき、教育環境整備事業を実施する。

### 【法人全体プロジェクト】

下記の 2 つを法人全体の発展に係る重要な課題と認識し、直轄プロジェクトとして位置づけて関係部門で検討を進め、具体化した内容から各部門のアクションプランに落とし込んで活動を実施する。

#### (1) 東京農業大学と東京情報大学の将来構想の検討

本法人は、法人傘下の東京農業大学と東京情報大学が少子化や変化する社会の中で将来にわたり社会に貢献できる教育・研究機関として生き残るべく、両大学の教育・研究資源を最大限に活かし、イノベーションが起こるような新たな大学へと進化するため、法人全体のプロジェクトとして「東京農業大学と東京情報大学の将来構想について」検討を進める。

#### (2) 学園化構想の推進

「農」、「生命」、「情報」といった分野の資源を活用しながら、高等教育機関、初等中等部門間の新たな教育・研究の手法や分野を切り開き、学園化を推進するとともに社会貢献に最大限に活かすべく連携関係を強化する。具体的には以下のような点について関係者間で検討を進め、機動性を持って活動を実現させていく。

- ① 大学間の教育・研究連携強化の推進
- ② 大学の教育・研究資源を活かした初等中等校における特色ある教育の推進
- ③ 初等中等校間での教務職員の人事交流や協働による教育水準向上
- ④ 小学校から大学までの児童・生徒・学生の交流による一人ひとりの成長機会の創出

## 【各部門の事業計画】

### 1. 東京農業大学

近年、地球規模の気候変動に伴う環境変化、自然災害、人口増加による食料危機、生活環境の悪化、経済格差の拡大、その他多様な生き物や人類生存への脅威、食料自給率に関する各地域での課題等は日々深刻になっている。国連サミットにおいて採択された SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) を達成していく上で「総合農学」が果たす役割は不可欠である。本学は、時代及び社会ニーズの変化を見据え、それぞれのキャンパスの持つフィールドを活かしながら、建学の精神「人物を畑に還す」及び教育研究の理念「実学主義」を展開し、自然科学、社会科学及び人文科学などの学際領域を横断した文理融合型の思考を持ち、時代の様々な変化に主体的に対応することのできる柔軟な考えと知性を兼ね備えた人材を育成するため、教育・研究のソフト、ハード面を整え、とともに以下の項目を強化する。

- (1) 総合農学を牽引する教育・研究（教育・研究組織の強化）
- (2) フィールド科学を重視した実学教育（フィールドセンターの新設や強化）
- (3) 農のある風景のキャンパスづくり（整備計画とレガシー構築）
- (4) ブランド力発信のための即時戦略（広報・連携・IR 分析による戦略）
- (5) 国際化を推進（各学部・各大学院専攻から特色ある人材を世界に輩出する）
- (6)アントレプレナーシップ教育による学生のためのイノベーション戦略（起業・就農支援）
- (7) 食育・栄養・メンタル・健康を強化・増進する学生教育・課外活動教育の推進
- (8) カーボンニュートラルの推進計画（法令・条例の対策と環境保全への貢献）
- (9) 教職・学術情報課程の強化（幅広い教養のある教育者養成と人材の循環）
- (10) 学生・教職員への支援策の強化（奨学金・教育と研究強化資金・スキル強化）

### 2. 東京情報大学

「情報学」と「看護学」を柱とした本学独自のコアコンピタンスを活かし、特色化、高度化を図り、もって情報化社会、地域社会、超少子高齢化社会の課題解決に貢献する大学を構築する。

総合情報学部は、AI、システム、ネットワーク、セキュリティ、エンタテインメントコンピューティング、データサイエンス、情報メディアを柱に、特色化、高度化を図る。看護学部は、情報活用・発信力、職業人としての基礎力、現場における本質を見抜く力を育成し、地域に貢献し、情報に強い看護師を育成する。

- (1) 研究拠点「共創ラボ」による教育・研究強化

学生が教員とともに先端的な研究に取り組む。そして、研究成果を社会実装する。

- ①理論と実践：先端技術の研究を推進し、学生が挑戦し達成感を得られる教育研究環境を提供する。
- ②共創と協働：学生と教職員がともに学ぶとともに、学部と大学院の協働で研究を推進し、成果を教育へ還元する。
- ③産官学連携による成果の社会実装：研究成果を社会実装する。
- ④看護学分野へ研究テーマを拡張し、「情報」×「看護」のアイデンティティを確立する。

## (2) 学部特色化のための施策

### ◆総合情報学部

#### ①学系の再構築（準備）

社会的ニーズ、本学のコアコンピタンスに立脚した教育研究を実施するため、2027 年度にむけて現在の学系体制（教職課程を含む）を見直す。（2027 年度改組予定）

#### ②ハイフレックス型授業の推進～環境整備及び試験運用～

学生が対面・オンラインを自由に選択できるハイフレックス型授業推進のための環境整備と試験運用を行う。導入の目的は次の通り。

- ・学生の利便性向上を図り、立地用件の不利を解消する。（満足度向上）
- ・ICT による教育力向上を図る。
- ・他大学との差別化及び特色化を図る。

#### ③アントレプレナーシップ教育～次のステージへ～

建学の精神「未来を切り拓く」、教育理念「現代実学主義」を具現化するため e スポーツを通じた各種事業、プログラミングコンテスト、東京ゲームショウへのオリジナル作品出展など学生のコンピテンシーの育成を柱としたアントレプレナーシップ教育を推進するための環境整備を行う。

### ◆看護学部

#### ①教育プログラムの特色化

看護学部教育を特色化するため次の 3 つを柱とした教育改革を実現する。

- ・看護分野の専門性や多様性を育む教育プログラムの構築を準備する。
- ・地域とつながる看護実践教育プログラムを推進する。
- ・「看護」×「情報」のアイデンティティを確立するため、共創ラボに「ヘルスケア AI リサーチラボ」（仮称）を設置する。

#### ②国家試験合格率向上対策 ～全員体制による国家試験指導～

過去の実績に基づき実効性のある国家試験対策を組織的に推進するとともに初年次から各学年に応じた施策を実行し、継続的に高合格率を確保する。

- ・学習支援システムとチューター制による指導・支援の強化 ～学習の進捗、成績、弱点を一元管理～

- ・ 国家試験直前期（4 年次後半）における集中講義、グループ学習の実施
- ・ 外部業者による模擬試験、弱点克服のための対策講座等
- ・ 学習が遅れている学生に対する対策
- ・ 1 年次生から 3 年生向け施策 ～1 年次生から国家試験対策のスタート～

### ③医療機関との連携強化～理念の具現化及び学生確保の強化

臨床教授等制度、入学者選抜、ヘルスケア実践研究センター等による地域連携事業を柱とした医療機関との連携強化を図る。

### (3) 地域連携・高大連携

総合研究所プロジェクト研究、共創ラボ、ヘルスケア実践研究センター等の各事業を核として千葉市、四街道市、佐倉市、香取市との地域連携及び STEAM 教育の提供等を通じた組織的な高大接続事業を強化する。

## 3. 東京農業大学第一高等学校・中等部

本学が直面する課題としては、2025 年 4 月に、東京農業大学稲花小学校の卒業生が入学してくることに伴い、高等学校段階での募集を取り止め、6 年間の中高一貫教育校へと改編した。このことに伴って、今後の世界、日本の教育の動向を捉えながら、教育理念「知耕実学」（実学を通して知を耕す）を通して「夢の創造と実現」をはじめとする教育目標の実現に向けて、6 年間の教育課程、進学指導計画、学校行事、入学定員、入試方法について、引き続き改善する必要があるため、教育環境を整えるとともに以下の内容を強化する。

知耕実学とは本物に触れる「実学」を通して、「知」を耕すということである。その物に触れる実学体験を通して、五感で体感し、仮説を立て、考え、判断して、行動・表現するプロセスには、思考の原点がある。授業、学校行事、部活動などの様々な場面で用意し、思考のプロセスを繰り返すことにより、「知」を耕し、自らを方向づけ、新たな豊かさを創造し、持続可能な世界を牽引するグローバル社会の発展に貢献する人物を育成する。

### (1) 理念・目的

教育理念「知耕実学」を通して、耕した「知」に「夢」という種を植え、育て、教育目標が達成できる、6 年間完全中高一貫校としての教育総合計画を確立する。

### (2) 学習指導

完全中高一貫校化及び稲花小学校の卒業生を迎え、教育活動の柱となる教育課程の編成、教務職員の授業力及び ICT 等のスキルの向上、そして生徒一人ひとりに学習習慣を確立させる体制の強化を目指す。

### (3) 生活指導・健康づくり

生徒が自らの健康管理、高度情報化社会におけるネチケットの知識及びスキルの習得、登下校中のマナーをはじめとする規範意識の向上を醸成する。

#### (4) 進路指導

生徒の希望進路の変化に対応して 6 年間の進路指導計画を改善し、キャリア教育の充実及び難関大学を含めた希望進路の実現を図る。

#### (5) 特別活動

生徒が学校行事に自主的・意欲的に取り組むことによる帰属意識の育成を目指す。

#### (6) 募集・広報活動

入学試験の実施方法を工夫すること、校内各部署と連携しながら内容及び実績を広報活動の主軸とし、安定的な生徒募集を実現する。

#### (7) 開かれた学校づくり

地域社会への開放事業、地域社会の行事への参加、小学校の行事への参加を通して、地域交流を深める。

#### (8) 安心・安全な環境づくり

今年度からの完全中高一貫校化に伴い、教育課程の改編、進路指導計画の改善、学校行事など安全で、安心な学習環境を再点検する。

#### (9) 学校経営・組織体制

起案による意思決定の明確化、校内研修・OJT による教職員の育成、部長会議、運営委員会、職員会議による情報の共有化、PDCA 会議による建設的なボトムアップができる体制を強化する。

### 4. 東京農業大学第二高等学校・中等部

本高等学校は「何事にも主体的に取り組める人材の育成」、中等部は「開拓と創造の精神の育成」を教育目標に掲げ、地域社会をはじめ、社会全体の発展や公益に寄与できる人材を育てる。学校創立以来、築き上げてきた確かな伝統と校風を堅持しつつ、社会の変革を敏感に捉えながら、継続的に学校改革を行う。「教職員への評価」＝「学校への評価」であり、教職員の弛まぬ研鑽こそが教育の質を担保し、学校の信頼を生む。このことを踏まえ、グローバル教育、ICT 教育、理科教育など特色ある教育を行い、熱意と誠意をもって生徒指導にあたることで、地域社会の期待と信頼に値する明確な実績を生み出すため、教育環境を整えるとともに以下の内容を強化する。

#### (1) 理念・目的

中等部は「開拓と創造の精神の育成」、高校は「何事にも主体的に取り組める人材の育成」という教育方針に沿って、すべての活動を通じて「人材育成」を柱とした教育を計画的に行う。

#### (2) 学習指導

教員は、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう人間性」などを生徒が十分に習得できるよう努力し、生徒の総合的な学力を養成する。

### (3) 生活指導・健康づくり

生徒が心身ともに健全で健康な学校生活を送れるよう生活指導を徹底する。

### (4) 進路指導

生徒一人ひとりの進路実現に向けて、情報を収集し、的確にその情報を生徒・保護者に伝達する。

### (5) 特別活動

心身ともに健全な指導を行い、クラブ活動やボランティア活動を生徒が主体的に行うよう導く。

### (6) 募集・広報活動

中等部・高校ともに、学力レベルの維持・向上を目指しながら募集定員を安定的に確保する。

### (7) 開かれた学校づくり

学校公開や授業公開を行い、率直な評価や意見聴取をもとに学校改革や授業改善を行う。

### (8) 安心・安全な環境づくり

校内施設・設備の点検を行い、問題のある箇所については遅延なく修繕を行う。また、防災や事故に対する危機管理を徹底し、事故を未然に防ぐために生徒指導計画を綿密に行う。

### (9) 学校経営・組織体制

重点施策として「計画的な教員研修の徹底」を掲げる。また、教育内容の充実と効果的な募集活動により、募集定員を充足させることで今まで通りの教育環境の維持・向上を目指す。

## 5. 東京農業大学第三高等学校・附属中学校

本校は、私立の高校・中学として、全てを兼ね備えた学校である。すなわち、充実した進路指導・併設校という特色を生かした進路保証、施設・指導者を備えた部活動、偏差値至上主義にとらわれない実学教育・グローバル教育・学内完結型教育による学びの姿勢の構築である。こうした取り組みにより、生徒たちの将来目標の設定とその実現に向けた大学進学の達成や、不透明な未来社会で生き抜ける人材の育成をするとともに、教育環境を整え以下の内容を強化する。

### (1) 理念・目的 <3つの指針>

- ①大胆なグローバル化→国際社会での社会貢献
- ②実学で真の力を育てる→探究し、自ら課題解決する姿勢の構築
- ③学内完結型学習体制→主体的に学ぶ姿勢を構築

### (2) 学習指導

授業と学校行事をリンクさせ、主体的な学びの姿勢・探究心を育成し、個々の進路希望を達成していく学習指導を展開する。

### (3) 生活指導・健康づくり

変容する社会の中で、時代のニーズに即した指導指針を作成し、健康教育を実践することで、心身ともに健全な成長を促す。

### (4) 進路指導

3年間(6年間)の進路指導を通して、将来を踏まえた進路目標の設定と目標設定のための学力向上を保証する。

#### (5) 特別活動

主体的に学校行事に取り組む生徒会活動およびボランティア活動への参加を推進する。

#### (6) 募集・広報活動

地域社会から期待されている学校像、すなわち文武両道・併設校等の教育の特色を積極的に発信し、受験生確保に向けた広報活動を実践する。

#### (7) 開かれた学校づくり

地域社会の近隣住民への学校の開放と生徒・教職員の自治会行事等への積極的な交流により開かれた学校の姿を地域社会に発信する。

#### (8) 安心・安全な環境づくり

生徒・保護者が、学校生活で教育活動面、施設等で不安感を持たず、安心安全に生活できる学校づくりを進める。

#### (9) 学校経営・組織体制

教務部門での重要4業務分野(授業・学級経営・校務分掌・課外活動)のうち、中学校・高校、コース・学年、運動部・文化部等の特性を超えて、「授業」「学級経営」「課外活動」の各分野での業務遂行能力と、組織としての対応力を向上させる。

## 6. 東京農業大学稲花小学校

本校は、教育理念「冒険心の育成」を具現化するため、教育方針として「3つの心と2つの力」(感性・向上心・探究心とコミュニケーション力・体力)の育成を掲げている。さらに「10の能力」(興味・関心、創造力、問題解決力、習得力、主体性、目標設定力、発信力、傾聴力、自律力)を教育指標としている。

本校のカリキュラムの特徴の一つが、本法人の教育・研究資源を最大限に活用した体験重視型の実践的な教育である。教育理念を実現し、また文部科学省が学習指導要領において設定している「3つの資質・能力」と深く結びついた学びを実現するため、以下の諸点を強化する。

#### (1) 理念・目的

体験学習「稲花タイム」のカリキュラム及び年間行事等を確立する。さらに、教育体制として「チームティーチング」実現に向けた組織づくりに重点をおき、取り組んでいく。

#### (2) 学習指導

基本理念である「冒険心の育成」を具現化するため、「冒険心」を形成する5つの要素(感性、探究心、向上心、コミュニケーション力、体力)に着目し、これら「3つの心と2つの力」を育成する児童指導を行う。また、教育指標として設定した「10の能力」に基づく指導と評価により、教育方針の実現を目指す。

### **(3) 生活指導・健康づくり**

心身共に健康で安全な学校生活を過ごせるような環境整備を行い、保護者との連携による生活指導や心身の発達に対応する支援を行う。

### **(4) 進路指導**

併設中学校の協力を得ながら密接な連携関係を構築する。

### **(5) 特別活動**

小学校のカリキュラム上、異学年交流や組織作りの機会として「クラブ活動」が配当されている。小学校・アフタースクール・教育後援会の三者で、協力と棲み分けを意識し、より充実した活動を展開できるように整備する。

### **(6) 募集・広報活動**

HP、幼児教室での説明会、本校での入試説明会及び学校見学会等それぞれの機会です正しい情報を発信するとともに、情報を受ける側の満足度が向上するような発信方法や内容の整備を行い、更なる充実を図ることを目標とする。

### **(7) 開かれた学校づくり**

社会的課題となっている「小1プロブレム」に対し、文部科学省が推奨する「幼保小の架け橋プログラム」について、検討を始める。

### **(8) 安心・安全な環境づくり**

文部科学省が定める「学校安全衛生基準」の遵守を継続し、常に学校の危機管理体制の見直しを行い、児童の安全確保に努める。さらに「危機管理マニュアル」の制定をめざす。

### **(9) 学校経営・組織体制**

これまでの実績をもとに見直しを行い、収支基盤を固め、経営の安定化に努める。